

年次活動実績報告

研究活動報告（設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。）

信頼度の形成をネットワーク上で実現するためのアーキテクチャをデザインし、その有効性の確認方法をも構築する。

→Social Capitalの定量的な評価手段の確立を目指し、コロナ禍における様々に発生しているコミュニケーションの分析を始めた。ベースにはOECDで提案された一般的信頼を中心とする議論を拡張し、メディア毎、特にTwitterなどの比較的新しいメディアとリアルな関係性との関連を明らかにするべく進めている

上記結果を随時W3Cをはじめとして、関連組織にフィードバックし醸成化する学術的なアプローチとして、IFIPなどの技術と精度の境界領域で議論を進める
GDPRとの整合を分析する

→メトリクス可能なモデル形成を行うため、2回にわたる合計2000サンプル以上のアンケート調査を行い、Digital Twinにおけるサーバー空間とリアル空間との相関を顕在化させることができた。分析中ではあるがコロナ禍が加速させた結果になるようなSocial Capitalの動きをとらえることに成功したと考えている。

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

International Conference on Computational Social Science (IC2S2 2021)へ投稿中